

監査 205
「監査の結論及び報告」
【ゼミナール】

J2

実務補習所においては、実務補習生や実務補習の運営関係者間で共有すべきものとして、ミッション（存在意義）、ビジョン（目指すべき姿）、及び行動指針（共有すべき行動軸）を次のとおり掲げている。

【実務補習のミッション】

実務補習は、試験合格者が「会計職業専門家としてふさわしい品位と幅広い識見を備え、専門的知識を実務上で応用できる能力を有する公認会計士」としてキャリアを歩み、グローバル時代の社会に貢献していくために必要な基礎を身につけるための補習教育を提供していくことをミッションとする。

試験合格者が修了考査受験前に身につけるべき「基礎」は、おおむね次に集約されると考えられる。

- (1) 社会に貢献する会計職業専門家としての価値観、倫理及び姿勢
- (2) 会計職業専門家に必要な専門的知識、実務能力、応用力とその学び方
- (3) 会計・税務・監査を一体不可分のものとして捉える視点
- (4) 会計職業専門家に必要なコミュニケーション能力
- (5) 公認会計士が活躍し社会に貢献する分野の理解
- (6) 会計職業専門家に必要なネットワーク力（人的ネットワークを構築し活用する能力）

実務補習の運営に携わる者は、実務補習生が上記の「基礎」を有効かつ効率的に身につけ、「キャリアパスにかかわらず、公認会計士登録者は総じて優秀で、専門分野の知識・実務能力・応用力のバランスが取れている」との評価を得ることを目標とし、試験合格者の教養・経験、所属組織と組織内の人材開発プログラム、試験合格者を取り巻く外部環境、担当業務・キャリア等の多様化、国際教育基準（International Education Standards）の要請、公認会計士業界の状況、グローバル経済の進展等を踏まえ、金融庁、監査法人等のステークホルダーと連携していく必要がある。

【実務補習のビジョン】

実務補習は、社会に貢献する公認会計士を育成するための過程であり、試験合格者がキャリアの良きスタートを切るのに大いに役立ったと評価、また、公認会計士業界及び公認会計士業界以外からも実務補習を修了した者の見識、業務に取り組む姿勢等に対して高い賛辞を得ることを目指す。

【実務補習の行動指針】

【実務補習生と所属する組織】

- (1) 実務補習生は、身につけるべき「基礎」を修得するために、実務補習を最大限活用する
- (2) 実務補習生が所属する組織は、実務補習のミッションとビジョンを十分に理解し支援する

【協会と監査法人】

- (1) 協会と監査法人は、実務補習を適切に運営するために必要十分な運営委員及び講師を提供する
- (2) 協会、監査法人、機構が三位一体の連携を行う

【実務補習の運営に携わる者】

- (1) 実務補習の運営に携わる者は、実務補習生を取り巻く環境も考慮に入れ、実務補習の充実化を目指す
- (2) 協会の後進育成担当常務理事、機構の実務補習所所長及び運営委員会の正副委員長は、実務補習のミッション及びビジョンを推進し、職務の遂行に努める
- (3) 運営委員及び講師は、実務補習のミッション及びビジョンを踏まえ、実務補習生と対峙し職務の遂行に努める

監査 205 監査の結論及び報告【ゼミナール】

1. あなた方がアサインされた監査チームは、(株)ポンタを監査している。
今回は 2021 年 3 月期の監査を行う。

2. (株)ポンタは、次のような株式会社である。

- ①贈答用の和洋菓子、大手流通向けのチルドデザートなどを取扱う会社である。
- ②創業 43 年が経ち、創業者も退任し、次のビジネスの柱を模索している時期である。
- ③資本金は、10 億円。総負債は、36 億円である。
- ④営業赤字が続いている。

3. その他、現在までに入手できている主な資料は、「別紙」のとおりである。

資料 1. (株)ポンタの沿革

資料 2. (直近のラフな) 貸借対照表

資料 3. (直近のラフな) 損益計算書

資料 4. (直近のラフな) キャッシュ・フロー計算書

資料 5. 借入金明細表

資料 6. 主な設備の状況

資料 7. 会社の事業計画

資料 8. 継続企業注記を話題にしたときの経営者の反応

【問題】 与えられた資料を分析して、(株)ポンタにおいて、①継続企業の前提に関する事項(GC)を財務諸表に注記を付すことの要否、また、②GC注記を付した場合のリスクあるいは付さなかった場合のリスク、さらに、③経営者への説明事項を考えなさい。

以 上

資料1：(株)ポんタの沿革

当社グループ(株)ポんタ及び連結子会社ポんタ食品(株)は1977年に九州博多の贈答用洋菓子の製造業者として発足した。その後、和洋菓子の優秀な技術をもった業者が5つ集まって、資本金500万円にて、1982年6月、西日本食産株式会社(初代社長：明石一郎)を設立、総合菓子メーカーとしての道を歩みはじめた。

1977年3月	福岡県福岡市中央区で贈答用洋菓子店として創業。
1982年6月	資本金500万円で株式会社を設立、商号を西日本食産株式会社とする。
1986年4月	福岡県北九州市に九州工場を開設。
1991年4月	岡山県倉敷市に倉敷工場を開設。
1993年6月	東京支店を設置。
1996年8月	社名を「ニシシヨク株式会社」へ変更。
1998年4月	株式会社モナカモンを合併。
2003年7月	JASDAQ市場に上場。
2005年4月	静岡県清水市に静岡工場を開設。
2009年12月	本社を新宿区に移転。社名を「株式会社ポんタ」とする。
2010年1月	アンテナショップ「ポんタハウス」を青山にオープン。
2010年10月	埼玉県川越市にデリカセンターを開設。
2010年11月	ポんタ食品(株)(現 連結子会社、埼玉県比企郡吉見町)を設立。
2011年1月	カフェレストラン「ポんタカフェ」を銀座にオープン。
2013年12月	「ポんタカフェ」銀座を売却。
2014年9月	「ポんタハウス」青山を売却。
2015年3月	倉敷工場、静岡工場を売却。
2020年6月	和菓子部門を譲渡。

資料2：(直近のラフな)貸借対照表

貸借対照表

(2021年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金額	科 目	金額
資産の部	4,200	負債の部	3,600
流動資産	800	流動負債	1,400
現金預金	200	買掛金	200
受取手形	30	未払金	100
売掛金	270	短期借入金	700
商品及び製品	130	1年内返済予定長期借入金	300
原材料及び仕掛品	160	未払法人税等	35
貯蔵品	1	未払消費税等	1
前払費用	1	未払費用	40
短期貸付金	1	賞与引当金	20
未収収益	1	預り金	2
その他流動資産	8	その他の流動負債	2
貸倒引当金	△2	固定負債	2,200
固定資産	3,400	長期借入金	2,200
有形固定資産	3,000	純資産の部	600
建物	300	株主資本	598
構築物	10	資本金	1,000
機械及び装置	840	資本剰余金	200
車両運搬具	1	資本準備金	200
工具器具備品	229	利益剰余金	△600
土地	1,620	利益準備金	90
無形固定資産	15	繰越利益剰余金	△690
電話加入権	15	自己株式	△2
投資その他の資産	385	評価・換算差額等	2
投資有価証券	63	その他有価証券評価差額金	2
関係会社株式	22		
長期貸付金	750		
長期未収金	300		
貸倒引当金	△750		
資産合計	4,200	負債・純資産合計	4,200

資料3：(直近のラフな)損益計算書

損 益 計 算 書

自 2020年4月1日

至 2021年3月31日

(単位：百万円)

科 目	金 額
売 上 高	3,600
売 上 原 価	2,300
売 上 総 利 益	1,300
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	1,450
営 業 損 失	△150
営 業 外 収 益	20
営 業 外 費 用	370
経 常 損 失	△500
税 引 前 当 期 純 損 失	△500
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	1
法 人 税 等 調 整 額	△ 1
当 期 純 損 失	△500

(注) 営業外費用には、以下の項目が含まれている。

貸倒引当金戻入：470百万円

貸倒引当金繰入：750百万円

資料4：（直近のラフな）キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書

自 2020年4月1日

至 2021年3月31日

（単位：百万円）

I. 営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純損失	△	500
貸倒引当金の増加		280
受取利息配当金	△	20
支払利息		90
売上債権の増加額	△	20
たな卸資産の増加額	△	10
仕入債務の減少額	△	40
未払債務の減少額	△	30
その他	△	10
小計	△	260
利息及び配当の受取額		20
利息の支払額	△	90
法人税等の還付額		10
営業活動によるキャッシュ・フロー	△	320
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー		
貸付けによる支出	△	750
長期未収入金の回収による収入		470
定期預金の払い戻しによる収入		80
営業の譲渡による収入		400
投資活動によるキャッシュ・フロー		200
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増加高		150
財務活動によるキャッシュ・フロー		150
IV. 現金及び現金等価物の増加高		30
V. 現金及び現金等価物の期首残高		170
VI. 現金及び現金等価物の期末残高		200

資料5：借入金明細表

借入金明細表

(単位：百万円)

借入先名	使途	期末残高	返済期限	区分	備考
博多銀行 東京支店	運転資金	700	2021年9月30日	短期	
大日本生命 法人部	研究投資	300	2021年9月30日	短期	
大日本生命 法人部	研究投資	200	2022年3月31日	長期	
曙銀行 本店	設備投資	1,000	2021年3月31日	長期	借換交渉中。
曙銀行 本店	設備投資	1,000	2022年3月31日	長期	借換交渉中。

- ① 曙銀行(本店)からの借入金1,000百万円(期日：2021年3月31日のもの)と1,000百万円(期日：2022年3月31日のもの)は、それぞれ、2011年4月1日と2012年4月1日を借入日とする10年ものの長期借入金であり、2011年4月1日に借入れたものは当期末に既に返済期日を迎えている。
- ② ㈱ポインタの社長(明石啓介)によれば、この2,000百万円は、次のような経緯を持つ。
- (i) もともと地元根付いて堅実に商売をしていた当社としては、これは借りる必要のない資金であった。
 - (ii) 当社の洋菓子が大ブームとなった2010年前後に全国展開のためと称して、都内の不動産物件とともに、銀行側が話を持ってきて押し付けてきたものである。
 - (iii) 当社は、半ば、そそのかされたも同然であり、その後の当社の盛衰をみると、責任はこの銀行にもある。
 - (iv) 当社としては、訴訟も辞さない覚悟で、借換の交渉にあたっている。
 - (v) 契約書上の返済期限は到来しているが、当社の認識としては長期借入金のみである。
 - (vi) 債務認識はあり、利息は期日通りに支払っている。
- ③ それ以外の借入金は、通常の借入金であり、いまのところ滞っていない。

資料 6 : 主な設備の状況

(2021年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	事業の 種類	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械及び 装置	土地 (面積㎡)	その他	合計	
本社 (東京都 新宿区)	—	本社機能	100	100	1,100 (400㎡)	30	1,330	40
博多支店 (福岡市 中央区)	—	営業	40	40	70 (300㎡)	15	165	25
九州工場 (福岡県 北九州市)	洋菓子	生産設備	70	200	50 (5,200㎡)	60	380	50
デリカ センター (埼玉県 川越市)	チルド デザート	生産設備	100	500	400 (6,600㎡)	140	1,140	50
		合計	310	840	1,620	245	3,015	165

それぞれの事業所の地価は、次のとおりであった。

(2021年1月1日現在の地価公示による概算推定値である。)

事業所名(所在地)	土地の簿価 (百万円) (面積㎡)	土地の推定地価 (百万円)
本社 (東京都新宿区)	1,100 (400)	1,756 西新宿7丁目
博多支店 (福岡市中央区)	70 (300)	172 渡辺通
九州工場 (福岡県北九州市)	50 (5,200)	482 門司
デリカセンター (埼玉県川越市)	400 (6,600)	1,030 南古谷

資料 7 : 会社の事業計画 (2021. 4. 20 の取締役会で承認済み)

中期経営計画 単位：百万円

分野	損益区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
洋菓子	売上	1,700	1,800	1,900	2,000	2,100
	原価	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500
	経費	500	500	500	500	500
	営業利益	100	100	100	100	100
チルドデザート	売上	2,000	2,200	2,400	2,600	2,800
	原価	1,000	1,160	1,300	1,440	1,570
	経費	920	850	800	750	710
	営業利益	80	190	300	410	520
小計	売上	3,700	4,000	4,300	4,600	4,900
	原価	2,100	2,360	2,600	2,840	3,070
	経費	1,420	1,350	1,300	1,250	1,210
	営業利益	180	290	400	510	620
その他費用		80	90	100	110	120
最終利益		100	200	300	400	500

(注)

1. 洋菓子カテゴリは、今後も大きく市場は成長しない。製造原価の上昇は小幅にとどまる見込み。当社製品は贈答用・土産用として非常に知名度が高いことから、営業利益は安定的に、ここ数年は毎期 100 百万円得られる見込みである。
2. チルドデザートカテゴリは、大手流通企業（コンビニ・大規模スーパー）の PB 採用に向けた当初の投資額が大きく、経費も多額であったが、徐々に減っており、売上の伸びに比例して、営業利益は毎年 100 百万円ずつ増加すると見込まれている。
3. 大手流通企業の PB 採用見込みについては、文書等での回答は得られないが、流通各社の商品開発責任者からの評価は高く、今後 5 年間の利用拡大で、内々に打診をいただいている。
4. その他の費用は、今後も 100 百万円が標準的に発生すると見込まれるが、大きな増加はない。

資料 8. 継続企業注記を話題にしたときの経営者の反応

社長（明石啓介）：	ダメだダメだ。GC（ゴーイング・コンサーン）の注記だなんて、とんでもない。絶対に許さんぞ。
公認会計士（高橋）：	しかし社長。GCの注記がなければ、私たちも適正意見を出しにくいところまできているのです。
社長（明石啓介）：	いいですか。ご存知のようにわが社は、オヤジ（先代社長：明石一郎・故人）の拡大路線がたたって、・・・私が社長になったときには、もう、莫大な借金や不良資産を抱え込んでいた。・・・それを、懸命の努力でやっとここまで持ってきたんです。
公認会計士（高橋）：	それはよく理解しています。
社長（明石啓介）：	不良資産は処分したし、利益やキャッシュ・フロー重視の経営にも切り換えた。そして、いまやっと新しいスタートラインにたったばかりじゃないか！事業規模を縮小して、これから攻勢に転じる。これからという時に、いったい何が問題なんだ！
公認会計士（高橋）：	その事業規模の縮小が問題なんです。事業規模を縮小したことにより、固定費をカバーできる売上がない。「キャッシュ・フロー計算書」では、営業活動によるキャッシュ・フローの赤字が深刻じゃあないですか…。
社長（明石啓介）：	・・・。
公認会計士（高橋）：	売上高が著しく減少し、「損益計算書」や「キャッシュ・フロー計算書」で重要な赤字が計上されたときは、“継続企業の前提”に疑義が抱かれます。それに、曙銀行からの借入金 10 億円。期日がきても返済されていない、というじゃあないですか。
社長（明石啓介）：	確かに当期は赤字になっているが、翌期以降、黒字になる見込みだ。それと、銀行と「借換え」の交渉中だ。だいたい銀行も悪い。あんな借りたくもないカネを借りたおかげで、わが社が傾いたんだ。当然、曙にも責任の一端はあるはずだ。とにかく、GCの注記なんて、まかりならん。監査契約の破棄も辞さないぞ！そんな『倒産の烙印』を押されたおかげで、わが社が倒産したら、オタクの監査法人も訴えてやるからな。代表社員の鈴木にも、よく伝えておけ。

以 上

注 意

この教材は、実務補習機関一般財団法人会計教育研修機構で当機関の運営する東京、東海、近畿、九州実務補習所での講義用教材として作成したものです。

他の者が許可なく複写等することを禁じます。

一般財団法人会計教育研修機構